

小児の心因性嘔吐

Q：患者さんの子供で頻繁にえずく(嘔吐)子がいます。どんな原因が考えられるでしょう。

A：えずく原因としては食べ過ぎや飲み過ぎによる消化不良や心理的なストレスによるものなど様々なケースが考えられます。

えずく原因としては病気と関係のないものと病気に起因するものがあります。病気と関係のないものとしては歯ブラシを喉の奥に入れた時などにおこる咽頭反射による反射性のえずき、食べ過ぎや飲みすぎによる消化不良が原因のえずきなどが考えられます。最近はストレスが原因の心因性のものが増えています。日本小児心身医学会のホームページより心因性嘔吐症について紹介します。

心因性嘔吐(神経性嘔吐)

嘔吐の原因となる異常がなく、心理社会的なストレスが原因で嘔吐するものをいいます。不安や緊張を伴う場面で発生することが多く、本人は心理的ストレスを自覚していない場合もあります。また、バスの中で嘔吐してからバスを見るだけで嘔吐するようになるなど、特定の場所や時間に症状が出現する「条件付け」が関係している場合もあります。

症状

嘔吐には、悪心(気持ち悪い、むかむか)が主で嘔吐をほとんど伴わないもの、繰り返し続けて嘔吐するもの、食後など決まった時に習慣性に嘔吐するものなど様々なタイプがあります。一般に数日から数ヶ月持続しますが、腹痛や便通異常など他の症状は少なく、体重減少や成長障害が発生することは少ないと言われています。

嘔吐は、脳(延髄)にある嘔吐中枢や、隣接する chemoreceptor trigger zone(CTZ)への刺激によって発生します。子どもの中枢神経系は未熟なので、様々な刺激によって身体症状が発生しやすいと言われています。心理的ストレスを上手く処理できないという精神的な刺激が、嘔吐中枢を刺激して嘔吐が発生すると考えられています。発達の問題(知的障害や広汎性発達障害など)のために「条件付け」が発生しやすい子もいます。

診断

診察、血液・尿・便の検査、腹部エコー検査などを行い、嘔吐の原因となる他の疾患がないか確認します。さらに、症状の発現に心理社会的なストレスが関連していないか診断されます。嘔吐の原因となる病気はたくさんありますが、特に表記のものには注意が必要です。

注意点

嘔吐が頻回になると、胃酸のために食道粘膜が障害されたり虫歯が増えたりするので注意が必要です。また、嘔吐を怖れて食事が食べられなくなり、摂食障害へ進行する場合や、人前で吐くことを心配して、不登校やひきこもりになる場合もあります。

表

周期性嘔吐症(自家中毒、アセトン血性嘔吐症)	幼稚園から小学校の子供の約2%に認められ、頻度が高い嘔吐です。激しい嘔吐発作が数時間から数日持続して自然に軽快します。発作時は、脱水のため点滴が必要となることが多いのですが、発作のない時期は無症状です。感染症、心理的ストレス(行事など)、食物(チョコレートなど)などが引き金となります。ご家族に片頭痛の人が多いのも特徴です。思春期までに自然に改善することが多いのですが、片頭痛への移行が約30%に認められます。
消化器疾患	上腸間膜動脈症候群、腸回転異常症など
内分泌・代謝異常	周期性 ACTH-ADH 分泌異常症、ケトン性低血糖症、尿素サイクル異常症など
神経系疾患	脳腫瘍、てんかんなど
精神疾患	摂食障害による自己誘発性嘔吐、詐病など

治療

一般的に予後良好と言われていています。子どもの辛さを理解しながら、今は心理的ストレスを上手く処理できないために嘔吐しているが、成長に伴って改善するという見通しを持つことが大切です。症状が激しいときは、薬物療法(鎮吐剤、抗不安薬など)や点滴を行い、症状のない時は普通に生活して体験を増やします。学校でのいじめなど背景にある問題が明らかな場合は、周囲の大人が協力して環境を調整します。本人のストレス対処能力を改善するために、心理療法(遊戯療法・箱庭療法・カウンセリング)を行うこともあります。「条件付け」が発生している場合は、行動療法(少しずつ慣れて症状が出なくなるようにする脱感作療法など)が有効です。難治な場合、精神疾患や発達障害が背景にある場合、不登校など二次的な問題が発生している場合は、専門医との相談が必要となります。

【 参考文献 】

- 1) 日本小児心身医学会のホームページ
<http://www.jisinsin.jp/detail/07-okada.htm>